

# Newsletter

No.56

APRIL 2016



カレドニア(CALEDONIA)はスコットランドの雅名  
その国花は薊(あざみ)

## ジョン・ゴールトとスコットランド表象

### — 『限嗣相続』におけるハイランド描写の理由 —

浦口 理麻

2014年8月、ダイアナ・ガバルドンの人気小説『アウトランダー』シリーズを映像化したドラマの放送がアメリカで始まった。18世紀ジャコバイトの反乱とそれに巻き込まれる男女の恋愛を、ハイランドを舞台に描いた作品で、製作総指揮者はアメリカ人のロナルド・D・ムーアである。日本では2015年の夏からシーズン1の放送が始まり、日本語での公式ホームページも開設されている。そのホームページによると、この作品の影響でロケ地をはじめとしたスコットランドへの観光客が増えているらしい。ドラマは好評で、2016年にシーズン2の放映が予定されている。

スコットランドを舞台とするヒット作品には、スコットランドという土地を主人公にしたもの、すなわちスコットランド(とりわけハイランド)の美しい景色を味わうことが作品の重要な構成要素の一部であるものが多いように思われる。ムーア自身も、「この作品はスコットランドへのラブレターだ」と述べ、スコットランドへの愛を隠さない。スコットランドの自然だけを売り物にするのではなく人間模様にも焦点を当てた映画やドラマも、もちろんイギリス国内で多数制作されているが、海外からの観光客が増加するほどの社会的な変化を起こすヒット作となると、やはりスコットランド性を前面に押し出した作品の方に分があるようだ。芸術作品を、利益を生み出す商品という観点から見た場合は、こういった作品の方が制作側にとっては望ましい作品と言えるであろう。

スコットランドの歴史や風景描写が商品として成り立つようになったのは、1814年の『ウェイヴァリー』(Waverley)の出版がきっかけである。その一年前の1813年に、ウォルター・スコット(Sir Walter Scott, 1771-1832)と同時代の作家ジョン・ゴールト(John Galt, 1779-1839)がスコットランド西部の小さな村を舞台とした作品を書き上げ出版者に見せたところ、「スコットランド(を舞台とした)小説は売れない」と言われ出版を断られた。しかし『ウェイヴァリー』の出版後はスコットランド小説への需要が高まり、一度は出版を断られたゴールトの作品は、1821年に別の出版者のもとから出版される。これが後にゴールトの代表作となる『教区の年代記』(Annals of the Parish)である。1814年を境に状況は一変し、「スコットランド小説は売れる」ようになったのである。

1820年代に入ってからゴールトはスコットランド

を舞台とした小説を精力的に書き続ける。スコットが自国の歴史を取り上げ「過去」を描いたのに対し、ゴールトは同時代のスコットランド西部に住む人々の暮らし、つまりスコットランドの「現在」を描いた。スコットが描くスコットランドの美しい風景や激動の歴史同様、小さなコミュニティで素朴な暮らしを送る人々の描写は、読み手に郷愁を感じさせ、その郷愁が商品としての小説の価値を益々高めた。

しかし、ゴールトは次第に、スコットランドらしさを売りにした物語よりも、もっと普遍的なテーマで作品を執筆したいと思うようになる。そこで彼が執筆したのが『限嗣相続』(The Entail, 1822)だった。この作品はグラスゴーを舞台とし、商業化の進んだ社会で生きる人間のエゴや良心、欲望と信仰心の間での葛藤に焦点を当てた小説である。ゴールトのこれまでの作風とは全く異なるこの作品は、彼にとって、また同時代、そして未来のスコットランド文学界にとっても、新ジャンルを開拓した記念すべき作品となるはずだった。

ところが、第三部を執筆する際、出版業者ブラックウッドがゴールトにハイランドの要素を作品に取り入れることを要求する。ゴールトに抵抗する気持ちはあったものの、ブラックウッドに逆らうことはできず、この作品の後半では不自然にハイランドへと舞台が移動し、前半ではそれほど見られなかった風景描写(ストーリーとは明らかに関係ない)も増える。ゴールトは不自然な舞台設定に気乗りがしていない自分の気持ちを作品内で皮肉交じりに吐露している。これは作家としてあまり褒められた行為ではないのかもしれないが、それだけゴールトの抵抗の思いが強かったことを示している。そしてこの第三部の存在ゆえに、『限嗣相続』はまとまりのない作品になってしまった。

ゴールトは、一出版業者がストーリーに介入することに耐えられず、別の出版業者のもとで作品を出版し始める。しかし、売り上げが芳しくなく、結局はブラックウッドのもとに戻り、再びスコットランド小説を書くことを余儀なくされる。商業化された社会で生きる一人の人間の苦悩を描いた『限嗣相続』は、今ではほとんど読まれることはなく、批評家からの評価も高くない。

『ウェイヴァリー』出版から200年経った今でも、スコットランドの芸術作品に求められるものはそれほ  
(2面右下段へ続く)

## ハベトロットと山姥

高島 葉子

イングランドとスコットランド南部国境地方にハベトロット(Habetrot)という醜い老婆の姿をした妖精の伝承がある。ハベトロットは、地下に仲間とともに住んでいるとされており、糸紡ぎを得意とする糸紡ぎの守護妖精である。ハベトロットが醜いのは、長年の間の糸紡ぎのために、唇がだらりと分厚くなってしまったからである。ヘンダソン(Henderson)の民話集にハベトロットが登場する話が収録されているが、ハベトロットの醜い姿は「ハベトロットの唇はだらりと垂れ下がり、分厚く、娘はそんな唇はみたことがなかった」と表現されている。ヘンダソンの民話集に納められたこの話は、AT501「助けてくれる三人の老婆」に属するものであり、グリムの「三人の糸くり女」(KHM14 番)の類話である。粗筋は以下のとおりである。

昔、怠け者の娘がおり、糸紡ぎが大嫌いで、逃げてばかりいた。とうとう母親は堪忍袋の緒が切れ、三日で七束の亜麻糸を紡がなければ酷い目にあわせる言う。娘は困り果てて部屋を抜け出す。小川のそばで穴あき石に座って泣いていると、ハベトロットが現れ、仲間の糸紡ぎ妖精とともに一日で見事な糸を紡いでくれる。そのお陰で娘は若くハンサムな領主に見初められ、結婚する。しかし結婚後、領主に美しい糸を紡いでくれるように頼まれ、困った娘はハベトロットに相談する。するとハベトロットが糸紡ぎをすると自分たちのように分厚くだらりと醜い唇になることを示し、これを見た領主は二度と娘に糸紡ぎをさせないと約束する。

この民話に登場するハベトロットは、途方もない量の糸紡ぎを手助けし、それによって幸せな結婚を可能にしている。これは、日本の「米福・粟福」型の昔話の後半で継子の援助者となる山姥を連想させる。二つの話は、話型は異なるが、ハベトロットも山姥も超自然的な糸の生産力で主人公を助けるという点で、同じ機能を担っていると言える。しかし、どのような人間に援助するかという点では、両者に違いがある。山姥が援助するのは善良な性質の娘であり、人間側に良い資質が要求される。一方、ハベトロットの援助する人間の資質には特に美点が認められない。ハベトロットに助けられる娘は親もあきれほどの怠け者であって、山姥ならば見捨てるような娘である。ハベトロットは寛大にもそのような娘を助け、幸せな結婚を可能にしてやる。「米福・粟福」には、山姥は善人に福を授け、悪人には罰を与えるという教訓的色彩が施されているが、スコットランドの民話では、糸紡ぎ妖精ハベトロットの超自然的力の不思議さと寛大に焦点が当てられ、教訓性は見られない。また、山姥の超自然的能力は「糸の生産」にのみ表れているわけではないが、ハベトロットの超自然的能力は「糸紡ぎ」に特化している。

山姥は様々な話型の民話に登場するが、ハベトロットはこの話型に登場するのみである。しかし、ハベトロットは単に民話の登場人物というだけの存在ではない。キャサリン・ブリッグズ(Katharine Briggs)によれば、ハベトロットは糸紡ぎの守護妖精として実際に信じられており、彼女が織ったシャツにはあらゆる病気を治す力があると考えられていたらしい。このあたりは、女神的な性格も持つ山姥に通じるものがある。

(大阪市立大学)

## 訃報

2月14日に島村馨先生が逝去されました。先生は1982年に本学会に入会され、長年にわたり編集担当幹事として学会の発展に寄与されました。謹んでお悔やみ申し上げます。



## (1面より)

ど変わっていないのかもしれない。2014年は日本でもスコットランドが取り上げられることが多かった年であるが、そこで提示されるスコットランドの姿も紋切型のものが多かったように思われる。ドラマ『アウトランダー』のシーズン2では舞台がパリへと移り、ロケ地もスコットランドからチェコが中心となるようだが、スコットランドの美しい自然描写がなくてもドラマが人気を保てるのかが見どころの一つとなりそうである。(東京学芸大学)

## 『CALEDONIA』原稿募集のお知らせ

『CALEDONIA』編集委員会では、随時原稿を募集しています。2016年9月発行の第44号の募集は締め切りましたが、2017年発行の第45号に投稿ご希望の方は、2017年1月末日までに、編集委員の高松晃子(aktak@seitoku.ac.jp)までメールでお申し込みください。原稿の締切は、毎年5月末日(必着)となっております。

内容は、スコットランドの人文科学、社会科学、自然科学の諸分野に関係のあるものとし、未発表論文に限ります。口頭発表したものを論文にする場合は、その旨明記してください。分量は、論文が12,000字以内、研究ノート、書評は2,500字以内で、これは注や参考文献なども含めた字数になります。

詳しくはバックナンバーの「投稿規定」をご覧の上、奮ってご投稿ください。(高松晃子 記)

## 会費納入のお知らせ

学会費(5,000円、学生会員は3,000円)を未納の方は、郵便振替にて下記までお振り込み下さい。

郵便振替口座 00230-5-8328 日本カレドニア学会  
(8328 は右詰めでご記入下さい)

## ◆代表幹事就任挨拶 — 学会活動を振り返って

照山 顕人

1985年に東浦義雄先生が25年にわたる代表幹事を辞されてから、鍋島能成先生、難波利夫先生（途中から山根雅巳先生が代行された）、小牧英幸先生、中村匡克先生、木村正俊先生、櫻井雅人先生が重責を担ってこられました。私は1982年6月19日に入会しましたから、学会と歩みをともにして今年で34年ということになります。その間山根先生から櫻井先生の間には学会運営にも携わり貴重な経験をさせていただいてきました。ただ櫻井先生のご在任時に体調を崩し、十分なお手伝いができなかったことは大変申し訳なく思っています。

入会の時には東浦先生と一緒に会場の大隈会館に赴きました。私は高校の教員で25、6歳でした。お歴々がずらりと並ばれているのを目にしたとき、「とんでもない場違いなところに来てしまった。これが終わったら早々にやめよう」と思うことしきりで、2、3年は会のたびにこんなことばかり考えていました。参加者の中に大和資雄先生がおられるのには驚きました。高名な先生と同席できたことに感激し、帰り道早稲田の駅で握手していただいたことは今も脳裏に焼き付いています。

山根先生が代行に就かれたのは確か難波先生がご病気に倒れたからと記憶しています。山根先生は早稲田大学理工学部の教授で機械工学がご専門でしたが、バグパイプの奏者として学会にかかわっておられました。代行になられた直後、「私は機械が専門だから、文学のことはよくわからないので、学会の運営を手伝ってほしい」と依頼され、それから私の奮闘が始まりました。研究会では日程の調整、発表していただく先生方との交渉、そして案内状作成と発送。発送は年3回、夜な夜な宛て名書きしたのはいい思い出です。

私が入会したところ会員数はわずか40数名だったと思います。活動も年1回の総会と2回の研究会だけでしたし、学会誌も分量がかなり制約されていました。会員は年輩の先生方が多く、研究会というより、高級な会話を楽しむという雰囲気でした。そのためか「日本カレドニア学会は学会ではない、サロンである」という外部の人たちの批判を耳にすることもありました。それを聞くと非常に悔しく、何とか立派な学会にしたいと心から願ったものでした。

小牧先生の時代、それまでは事務局（照山）が独断で行っていた運営を役員会で行うようになりました。全国大会の開催などが話し合わせ、学会としての体裁が整っていきました。中村先生の時代になり、Newsletterの発行、公開講座、シンポジウムの開催や学会誌の充実が図られ、また木村先生の主導により『ロバート・バーズ詩集』、『スコットランドの歴史と文化』が学会の出版物として刊行されました。日本カレドニア学会が名実ともに研究団体として確立したとの感を強く持ちました。中村先生や木村先生の時代に、学会として十分な力をつけることができたと思います。そして前任の櫻井先生もこの伝統を見事に受け継がれました。

このたび代表幹事を拝命いたしました。先輩諸氏が築いてこられた伝統を絶やさず、有意義な学会として継続できるよう、非力ながら努力していく所存です。2018年の学会創設60周年に向けて会員の皆様のご協力をお願いいたします。

## ◆2016年第1回研究会報告

2016年第1回研究会が1月23日（土）、東京都文京区の拓殖大学文京キャンパスで開催され、「ウィリアム・シャープとフィオナ・マクラウドの作品にみる分身の変遷」と題して有元志保氏により研究発表が行われた。

ウィリアム・シャープはフィオナ・マクラウドとい

### 研究ファイル

#### アメリカ発『アウトランダー』シリーズを支えるスコットランドの歴史と伝承

井川 恵理

2014年9月17日グラスゴーのジョージ広場は、翌日の住民投票を控え、独立を求める人々で埋め尽くされていた。社会党のトミー・シェリダンや市民運動家によるスピーチ、「カレドニア」「500マイル」を歌う人々の声がこだまする。その登壇者の一人に俳優のサム・ヒューアンがいた。同年8月9日に英米協力のもと制作公開されたTVシリーズ『アウトランダー *Outlander*』(Startz制作)の主演俳優である。同作品の原作は、ダイアナ・ガバルドン Diana Gabaldon 著の同名シリーズ。1991年から2014年までに長編8作を発表、*New York Times*では全作がベストセラー小説として紹介され、物語は驚異的な濃度で継続している。作者のfacebookを覗くと「彼女の作品以外、小説を読めなくなる」との熱狂的読者の声も少なくない。日本でも加藤洋子氏により翻訳され好評を博しているらしい（ヴィレッジブックス2003～）。ここでは原作の第5巻段階での報告であることをご了承ください。

本作は、第二次大戦後の「現代」と18世紀の世界で紡がれる大河小説である。大戦中従軍看護師であったイングランド人クレアが戦後、夫とともにハイランドに旅行中、ひとりストーンサークルで石の割れ目に入り込み、1743年にタイムスリップしてしまうことから始まる。運命のハイランダー、ジェイミーに出会い、現代でその子を産み再び過去に戻ると新大陸に渡りスコットランド系移民とともに米独立戦争に巻き込まれて行く。時間旅行のモチーフは、様々なメディア作品で用いられている。SF的要素に加え、本来の「時」に戻る別れの予感が切なさを誘うせいかもしれない。映像に頼れない小説では、旅の瞬間や生活の変化をいかに読者に体感させるかが鍵となる。本作における人間の皮膚感覚、大西洋の両岸における植物、動物の生態、生活描写は、動物学を学び、量的行動生態環境学で博士号を取得しているという著者の真骨頂ともいえよう。そして同時に作品世界を支えるのは、スコットランドの歴史と伝承である。カロデンの戦いの結末を知りつつ逃れられぬ者、20世紀に伝わるジャコバイト歌謡を「新大陸」で歌う者、ゲール語の祈り、海と陸を往来するあざらしびとの歌。こうした素材が、海を、時を超え、現代においてかの地を学ぶ私たちに生きた声として響いてくるのである。（桜花学園大学）

う女性の筆名を持つ作家として知られるが、有元氏はまずその特異性を、二つの視点すなわち 19 世紀末イギリスの社会的背景とシャープ自身の個人的資質とから解説された。さらに異性の分身を生み出すに至った経緯と分身を描くことから生じる創作上の葛藤に触れ、最後に一者の中での分身との緩やかな共存という論点を付してシャープ像を締めくくられた。このあと研究発表をめぐり、参加者の間で活発な質疑応答が行われ、終始、真摯かつ和やかな雰囲気の中で研究会を終えた。最後に啓発的で内容豊かな発表をして下さいました有元志保氏はじめ、会場をご提供下さいました拓殖大学および大学関係者の皆様に厚くお礼を申し上げます。(立野晴子 記)

#### ◇研究発表要旨

#### ウィリアム・シャープとフィオナ・マクラウドの作品にみる分身の変遷

有元 志保

ウィリアム・シャープの作品には、分身というモチーフが頻出する。それらの分身は、19 世紀末という時代性やスコットランドという地域性を反映しつつ、本名に加えて複数の異名を用いて執筆活動を行い、特にフィオナ・マクラウドという異性のペルソナを構築したことで知られる、シャープ個人の自己意識と密接に関わっている。本発表では、シャープがマクラウドを含め、複数の名義で発表した詩や散文のうち、分身が出現する代表的なものを年代順に取り上げ、分身と、その主体との関係の変遷を辿った。それらの作品に描かれる、主体と異性の分身とのロマンティックな邂逅や、主体と複数の分身たちとの多面的な共生の展望などが、シャープの自己意識の変容の過程と呼応していることを論じ、彼が創作によって自己の多層性を表現する方法を探求し続けていたことを示した。(静岡県立大学短期大学部)

#### ◇2016 年度第 1 回研究会

日時：2016 年 7 月 16 日 (土)  
13:30 ~ 16:30

会場：同志社大学今出川キャンパス寒梅館 6 階会議室

発表者：未定 (募集中)

連絡先：鶴野祐介氏

※今年より会計年度の区切りが 4 月からになったため、第 1 回研究会となります。

#### ◇2016 年度第 1 回研究会の発表者を募集いたします

第 1 回研究会の研究発表者を募集しております。スコットランドに関するものであればどんな学問分野でも結構です。発表時間は 30 分 (+質疑応答 15 分) の予定です。ぜひご応募ください。

締め切りは 5 月 31 日とさせていただきます。

お問い合わせ・お申込みは鶴野祐介氏まで。

#### ◇2016 年度カレドニア学会大会のお知らせ

2016 年度カレドニア学会大会を 9 月 10 日 (土) に拓殖大学文京キャンパスで開催する予定です。今年度は 1 日のみの開催になります。

※詳細につきましては、次号でお知らせいたします。

#### ◇学会会員の執筆情報提供のお願い

本学会会員の執筆活動をニューズレターで毎回紹介しております。

スコットランドに関することで著作物がありましたら

編集担当へお知らせください。

情報の送り先：〒 422-8526 静岡県駿河区谷田 52-1  
静岡県立大学 米山研究室

E-Mail:

#### ◆日本スコットランド協会(JSS)

#### ◇日本スコットランド協会総会

日時：5 月 29 日 (日)

11:30 ~ 13:00 総会

13:00 ~ 15:00 懇親会

場所：日本外国特派員協会

(千代田区有楽町 1-7-1 有楽町電気ビル北館 20 階)

\*総会は会員のみ、懇親会はどなたでも参加できます。

#### ◇関西茶会倶楽部

日時：6 月 26 日(日) 14:00 ~ 16:00

場所：神戸倶楽部 (神戸市中央区北野町 4-15-1)

講師：渋谷 寛氏

※お問い合わせは日本スコットランド協会事務局へ

Tel & Fax:03-6380-5256

E-Mail:

#### ◆日本スコットランド協会後援

#### ◇インターナショナル・オルガン・フェスティバル・イン・ジャパン 2016

今年はスコットランドのエディンバラからサイモン・ニミンスキー (Simon Niemiński) 氏を招聘し、本邦初演のスコットランドのオルガン音楽を演奏。東京公演では、バグパイプと合唱が加わります。

パイプ・オルガン：サイモン・ニミンスキー

バグパイプ：山根 篤 (東京パイプバンド代表)

合唱：六本木男声合唱団 ZIG-ZAG

日時：6 月 17 日 (金) 18:30 開場 19:00 開演

場所：東京カテドラル聖マリア大聖堂

東京都文京区関口 3-16-15

入場料：5,000 円

※日本スコットランド協会及び日本カレドニア学会の会員には入場料の割引があります。割引チケットその他のお問い合わせ、お申し込みは日本スコットランド協会事務局へ

Tel & Fax:03-6380-5256 E-Mail:

#### ◆日本ケルト学会 2016 年度大会

日時：10 月 22 日 (土)、23 日 (日)

場所：静岡県立大学 (谷田キャンパス)

JR 東海道本線 草薙駅、静岡鉄道 県立美術館前

駅または草薙駅より徒歩 15 分



#### 日本カレドニア学会 Newsletter 第 56 号

2016 年 4 月 30 日発行

編集発行人 日本カレドニア学会代表幹事 照山顕人

<http://www.ne.jp/asahi/caledonia/jcs/>

事務局 〒 168-8626 東京都杉並区久我山 4-29-23

立教女学院短期大学 小林麻衣子研究室

Newsletter 編集担当 江藤秀一、野口英嗣、米山優子

(連絡先) 〒 422-8526 静岡県駿河区谷田 52-1

静岡県立大学 米山研究室